

縮小社会研究会

第 55 回研究会 (日程変更版)

日時：2021 年 7 月 16 日、19：00-20：30

オンライン(zoom)

<https://us02web.zoom.us/j/83873667611?pwd=L2JSWXdCcS9kRTQyUmMzZnNZ0ThNUT09>

パスコード：516726、ミーティング ID：838 7366 7611



日本は海に囲まれ、食料はじめ私たちの生活に海は大きな影響力を持っています。地球温暖化は陸だけではなく、海にも押し寄せています。海的环境や生物が温暖化によってどのような影響を受けているかを考えます。

海的环境・生物に及ぼす地球温暖化の影響

講師：小松輝久

講演要旨： 地球温暖化を考える際、地球表面の 7 割を占める海洋の存在を無視することはできません。海洋は地球温暖化の進行をやわらげる役割を担っています。例えば、1971 年から 2010 年までの 40 年間に地球全体で蓄積された熱エネルギーの 9 割以上は海洋に吸収されています(気象庁, 2021)。また、地球温暖化の原因である人間活動によって放出された二酸化炭素の約 3 割を海洋が吸収して、大気中の二酸化炭素の濃度の上昇を抑えています(気象庁, 2021)。



海洋は大気に比べて変化しにくいですが、いったん変化してしまうとその状態が長く続きます。このため、地球温暖化により海水温の分布や海流が変われば、長期間にわたって気候に影響を及ぼし、直接的、間接的に、私たちの社会に大きな影響を及ぼします。地球温暖化は、水温上昇、水温上昇に伴う水位の上昇、低気圧の増強、密度成層が強化されることによる底層の溶存酸素濃度低下、海水に溶け込む CO₂ の増加による海水の酸性化、などの影響を海洋に及ぼします。この研究会では、海的环境と海洋生物に、現在どのような影響がでているのか、将来どのような影響がでるのかについての研究例を紹介し、最後に、海草やマングローブなどの海洋生物が貯留する CO₂ が着目され、ブルーカーボンと呼ばれていますが、このブルーカーボンについても紹介し、世界 6 位の海岸線をもつ日本の温暖化対策の切り札として取り組むことの重要性を述べたいと思います。

小松輝久さんの略歴 京都大学農学部卒業、京都大学助手、東京大学准教授、横浜商科大学教授を経て、日本水産資源保護協会技術顧問、国際エメックスセンター上席研究員、政府間海洋学委員会西部太平洋地域小委員会生態系ハビタットマッピングプロジェクトリーダー

参加登録： 松久 (h.matsuhisa@shukusho.org) まで連絡願います。非会員の方は、松久まで氏名と所属などをお知らせ願います。参加費は無料です。